

「令和5年度学校経営方針」の策定にあたって

1 はじめに

私たちが生きる現代は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」と言われています。このような中、私たち教職員には、「子どもたち一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる力」を育むことが求められています。

そこで私たちは、令和の日本型学校教育の構築をめざし、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、日々の教育活動に取り組みなければなりません。

2 新中学校開校と地域の願い

平成23年6月にはじまった「山南地域のこれからの教育を考える会」の提言を受け、山南中学校・和田中学校の統合に向けた協議が「統合準備委員会」で始まりしました。地域の様々な立場の方々が何度も足を運び、新しい学校で学ぶ子どもたちの姿を想像しながら協議をすすめられました。途中2年間の休会を挟みましたが、平成31年3月に新校舎建設場所が決定され、その後も統合準備委員会の各部会において遠距離通学支援策をはじめ、制服、校歌、校章、PTAの在り方、等について協議されました。

新しい学校には、山南地域をひとつにつなぐことと同時に、過去と未来の架け橋となることが期待されています。



教職員による合同研修会

3 教職員による合同研修会の開催

学校においては、統合準備委員会の動きとは別に、2校の教職員が合同で研修会を開催し、新しい学校の教育課程をはじめとする学校の在り方について協議しました。特に、生徒心得や生徒会組織の検討にあたっては、現生徒会役員や2年生代表の生徒による協議を大切に、「自分たちの学校は自分たちでつくる」という気運の醸成に努めました。

全体会だけでなく各部会や生徒間協議も加えると20回以上の合同研修会を通して、私たち教職員も新しい学校づくりに主体的に参画し、協議を重ねることができました。



生徒版統合準備委員会

4 生徒の実態把握と課題整理

実態を把握する根拠となる資料としては、学習面では「全国学力・学習状況調査（以下全国学調）」や「丹波市学習定着度調査」をはじめ定期考査や日々の学習状況等、生活面では前述の全国学調生徒質問紙調査や生活アンケート、保護者や学校関係者の思いについては学校評価アンケートや学校評議委員会・学校運営協議会での意見等があげられます。また、統合準備委員会教育課程部会で整理された資料「こんな大人になってほしい（地域の願い）」も有用であると考えます。

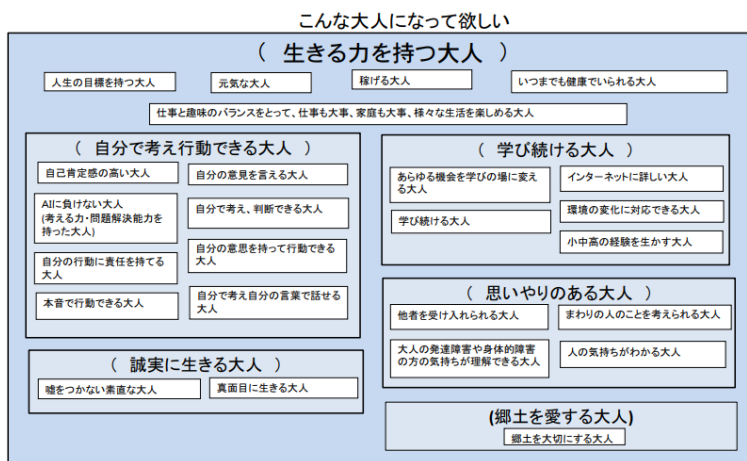
これらをもとに整理すると次の点が見えてきます。

【生徒の実態（強み）】

- 規範意識が高く、優しく正義感を持っている。
- 仲間を大切にし、様々な活動に協働して取り組むことができる。
- 地域を大切にでき、行事にも積極的に参加する。

【生徒の実態（改善点）】

- 与えられた課題には真面目に取り組むが、主体的・計画的な学習になっていない。
- 自分の考えを表現する力が弱く、周囲に追従することが多い。
- 将来の夢が明確でないことに加え、自尊感情が低く、自己有用感を感じにくい。



統合準備委員会教育課程部会整理資料

5 統合中学校がめざすもの

昭和30年代の後半に、市内の各旧町では中学校の統合がすすめられ、山南町以外はすべて旧町に1校となりました。それから60年の時を経て、令和5年4月に山南町においても山南中と和田中が統合し、新たに山南中学校として開校します。

小規模校同士の統合であり、学級数も増えることから、新たな関係づくりに不安を感じる生徒も少なくありません。また、教職員にとっても「以前は〇〇〇だったから」という前例踏襲が通用せず、混乱を招くことが予想されます。しかし、両校の共通点も少なくありません。特に人権（同和・平和）を大切にする学校風土は、統合中学校の基盤となることでしょう。また、部活動の合同チーム等により生徒間交流がすすんでいることも、関係づくりに役立つはずです。

前述の強みを生かし、教職員・生徒・保護者・地域が一体となった地域に誇れる学校づくりに向け、チーム学校として取り組んでいきたいと思います。



建築中の新山南中学校校舎



【生徒の姿】

- ・規範意識が高く、あたり前のことをあたり前にできる。
- ・仲間を大切にし、協力しながら様々な活動に取り組むことができる。
- ・真面目な態度で学習に取り組めるが、主体的、計画的な学びとしては課題が残る。
- ・自分の考えを主張するより、周囲に合わせようとする。



【保護者・地域の願い】

- ・自分で考え、判断し、行動できる人になってほしい。
- ・思いやりのある人になってほしい。
- ・郷土を大切にする人になってほしい。
- ・環境の変化に柔軟に対応できる人になってほしい。

【兵庫県基本理念】

兵庫が育む ところ豊かで自立する人づくり

【丹波市基本目標】

地域に誇りを持ち 自分たちの未来を創る人づくり



【学校教育目標】

地域に誇りを持ち 豊かな人生を切り拓く生徒の育成

～ふるさと山南で育む つなぐ・ひろげる・つくりだす力～

【めざす生徒の姿】

- ・自らの目標に向かって学び続ける生徒
- ・自分で考え、判断し、行動できる生徒
- ・多様な人々と協働しながら困難に立ち向かえる生徒
- ・自分も他者も大切にできる生徒



【めざす教職員の姿】

- ・生徒一人ひとりのよさを最大限に引き出し、主体的な活動を支援する教職員
- ・学校教育を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し学び続ける教職員
- ・家庭や地域と連携しながら学校づくりにチームで取り組む教職員
- ・教育者としての誇りをもって働く教職員



重点的に取り組む4項目

**【すべての生徒が安心して
学び生活できる居場所づくり】**

- ・生徒の内面理解に基づく対話を大切にした指導の充実
- ・いじめを許さず不登校を生まない学校風土の醸成
- ・一人ひとりが認められ自己有用感を感じる自治活動の充実

**【生涯学び続けるための
基盤となる力の育成】**

- ・授業のUD化によるすべての生徒にとってわかりやすい授業づくり
 - ・自分の学習を自分自身でマネジメントする力の育成
 - ・自ら学ぼうとしたり難しいことにも挑戦したりする態度の醸成

**【教職員の組織力向上と
業務改善、人材育成】**

- ・風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の活性化
- ・ワークライフシナジーの実現につながる働き方改革の推進
- ・研修機会の充実

**【地域とともにある
学校づくりの推進】**

- ・学校運営協議会設立に向けた取組の推進
- ・トライやる・ウィーク等の保護者や地域とつながる取組の充実
 - ・学校ホームページ等を活用した積極的な情報発信



令和5年度 重点取組項目に関する具体的な手立て

1 すべての生徒が安心して学び生活できる居場所づくり

- (1) 生徒の内面理解に基づく対話を大切にした生徒指導
 - ・傾聴を心がけ、生徒一人ひとりを「認める」「褒める」「伸ばす」指導の徹底
 - ・生活指導委員会を核とする組織的な校内体制の充実
 - ・定期的な生活アンケートと生徒面談の実施
- (2) いじめを許さず、不登校を生まない学校風土の醸成
 - ・些細な変化を逃さない未然防止、早期発見、即対応
 - ・同和、平和を核とする人権課題解決に生徒主体で取り組む活動の充実
 - ・教育支援センター「レインボー」をはじめとする関係機関との連携強化
- (3) 自尊感情を高め、自己有用感を感じる機会の充実
 - ・生徒が主体的に取り組む活動の充実（学校行事、生徒会活動等）

【評価指標】

- 「困りごとや悩みごとを相談できる先生がいる：80%」（年度末：学校評価生徒アンケート）
- 「不登校：前年度より減、新規不登校：0」（年度末：実人数）
- 「人の役に立ちたいと思う：80%」（年度末：学校評価生徒アンケート）

2 生涯学び続けるための基盤となる力の育成

- (1) 授業のUD化を核とする授業改善
 - ・校内研修推進と具体的支援策の共有
 - ・探求型授業の展開
 - ・基礎基本の確実な定着
- (2) 学びのマネジメント力の育成
 - ・生徒一人ひとりの課題確認と目標設定
 - ・「何を」「いつ」「どれだけ」学習するのかを可視化した学び方の構築
- (3) 挑戦心の向上と自ら学ぼうとする態度の醸成
 - ・生徒会活動を軸とする生徒が主体的に取り組む自治活動の充実
 - ・英検チャレンジ事業等、自ら学ぶ機会の活用
 - ・アントレプレナーシップ教育をはじめとするキャリア教育の充実

【評価指標】

- 「授業はわかりやすい：80%」（年度末：学校評価生徒アンケート）
- 「自分に合ったやり方で計画的に学習している：80%」（年度末：学校評価生徒アンケート）
- 「難しいことでもあきらめずに挑戦している：80%」（年度末：学校評価生徒アンケート）

3 教職員の組織力向上と業務改善、人材育成

- (1) 風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の活性化
 - ・校内組織を生かした教職員の協働体制の充実
 - ・会議時間、協議内容を明確にした計画的な会議の開催（時間割内に時間設定）

- (2) ワークライフシナジーの実現につながる働き方改革の推進
 - ・タイムマネジメントによる「時間」を意識した働き方の推進
 - ・記録簿の活用
- (3) 研修機会の充実
 - ・研修委員会を中心にした計画的な研修会の開催
 - ・OJT、自主研修の奨励

【評価指標】

- 「校務分掌に基づき、教職員全員で組織的・協働的に教育活動に取り組んでいる：80%」
(年度末：学校評価教職員アンケート)
- 「超過勤務時間：前年度比マイナス10%」(年度末：実時間数)
- 「自己研鑽に努めている：80%」(年度末：学校評価教職員アンケート)

4 地域とともにある学校づくりの推進

- (1) 学校運営協議会設立に向けた取組
 - ・熟議の開催
 - ・各地域づくりセンターや校区内関係機関との連携
- (2) 保護者、地域との連携充実
 - ・トライやる・ウィークの実施や地域行事への参加等、生徒が地域で活動する機会の充実
 - ・PTA と連携した取組の充実
- (3) 積極的な情報発信
 - ・ホームページや学校だより、学級通信等を活用した情報発信
 - ・学校行事やオープンスクール等、教育活動の積極的な公開

【評価指標】

- 「熟議の開催等、設置に向けた取組推進：年度内設置」(年度末：実態)
- 「地域と連携して教育活動をすすめている：80%」(年度末：学校評価教職員アンケート)
- 「学校の様子を学校だよりや学年・学級通信、HP 等により知ることができる：80%」
(年度末：学校評価保護者アンケート)



新山南中学校校舎全景イメージ



檜皮葺が施されたランチルーム